

日本保健物理学会 新 Newsletter 2018 年 11 月 27 日号

送信者:一般社団法人日本保健物理学会<exec.off@jhps.or.jp> 2018/11/27 16:19:08

日本保健物理学会 新 Newsletter 2018 年 11 月 27 日号

1. 学会関連情報

○企画シンポジウム開催のお知らせ「医療における放射線防護を考える-医療被ばくと従事者被ばく-」事前申込受付中
2019 年 1 月 12 日（土）13:30～17:00 東京医療保健大学国立病院機構キャンパス別館 2511

<http://www.jhps.or.jp/cgi-bin/conv/page.cgi?id=74>

○放射線防護標準化委員会「現存被ばく状況における廃棄物の管理に関する防護のガイドライン」公聴審議会開催のご案内

2019 年 1 月 12 日（土）10:30～12:00 東京医療保健大学国立病院機構キャンパス第 2 別館 H2511

申込み方法等は下記をご覧ください。

<http://www.jhps.or.jp/cgi-bin/news/page.cgi?id=133>

<http://www.jhps.or.jp/cgi-bin/info/page.cgi?id=14>

○[速報]編集委員会 「保健物理」が国際的文献データベース Scopus に収録されることが内定。

編集委員会では、「保健物理」掲載記事をより多くの方に読んで頂くため、「保健物理」の Scopus への収録を目指してきました。

このたび Scopus コンテンツ選定委員会による審査の結果、収録が内定しました。

詳細は、学会 HP の「お知らせ」のコーナーに掲示してあります。

<http://www.jhps.or.jp/cgi-bin/news/page.cgi?id=132>

○IRPA IRPA 15 official e-Newsletter (Autumn 2018)が届きましたのでご覧ください。

IRPA 15 開催：11-15 May 2020 in Seoul, Korea

<http://www.jhps.or.jp/upimg/files/IRPA15%20official%20e-Newsletter%20%28Autumn%202018%29.html>

2. 関連する研究情報

○10th International Symposium on Radiation Safety and Detection Technology (ISORD-10)

要旨提出期限：2019 年 5 月 15 日

(2019 年 7 月 16 日-19 日、Taiyuan China 中国の太原)

<http://www.isord-10.org.cn/>

(論文情報)

○Radiate Res (2018) 190(4).433-444

原爆被ばく生存者の疫学調査(LSS)結果の分析から、乳がんのリスクは初潮年齢が強い修飾因子であることを示した。初潮年齢が上がるほど過剰相対リスク(ERR)および過剰絶対リスク(EAR)は低下し、被ばく時年齢が初潮年齢の前後でERRが変化した。思春期前後の被ばくの乳がんリスクの感受性が高いことを示唆した。

Incidence of Breast Cancer in the Life Span Study of Atomic Bomb Survivors: 1958-2009

Brenner AV et al

<http://www.bioone.org/doi/abs/10.1667/RR15015.1>

○Scientific Reports Published: 25 September 2018

思春期前の照射は、妊娠出産未経験ラットでは乳がんリスクが増加したが、妊娠出産経験ラットでは照射していない妊娠出産未経験ラットと同じ程度に乳がんリスクが低かった。

Differential effect of parity on rat mammary carcinogenesis after pre- or post-pubertal exposure to radiation

Takabatake M et al

<https://www.nature.com/articles/s41598-018-32406-1.pdf>

○Scientific Reports Published: 14 November 2018

134Csをトレーサーとして用いることにより、福島原発事故5年後に259(事故前・後含む、水道水は含まない、国外のもの含む)の食品を調べたところ、乾燥しいたけ等から高い137Csが検出されたが、24.5%の137Csは福島事故以前のものであった。259の食品のうち75の食品(乾燥しいたけだけでなく魚を含む)の137Csは福島事故前由来であることがわかった。

Source evaluation of 137Cs in foodstuffs based on trace 134Cs radioactivity measurements following the Fukushima nuclear accident

Hori M et al

<https://www.nature.com/articles/s41598-018-35183-z#article-info>

○Journal of Environmental Radioactivity Available online 17 September 2018

放射線量の詳細分布の推定を可能にする計算システム「3D-ADRES」を開発した。人工衛星画像等を用いて複雑な市街地や森林をリアルにモデル化し実際の市街地及び森林での放射線量の詳細な3次元分布を推定した。大熊町及び富岡町の特徴の異なる3つのエリアで妥当性を実証。

Simulation study of the effects of buildings, trees and paved surfaces on ambient dose equivalent rates outdoors at three suburban sites near Fukushima Dai-ichi

Kim M et al

<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0265931X17309359?via%3Dihub>

原研サイト <https://www.jaea.go.jp/02/press2018/p18111603/>

3. ニュースや社会の動き

○原子力規制委員会 安定ヨウ素剤の配布・服用のガイドライン見直しへ(11月21日)

<http://www.nsr.go.jp/disclosure/committee/kisei/00000387.html>

○国際放射線防護委員会（ICRP）の第 4 専門委員会が 2018 年 11 月 8 日-15 日にアラブ首長国連邦で開催した年会の要約を発行。

<http://www.icrp.org/admin/Summary%20of%20November%202018%20C4%20Meeting%20Abu%20Dhabi.pdf>

○ICRP 報告書草案「Radiological Protection from Naturally Occurring Radioactive Material (NORM) in Industrial Processes」の公開意見募集を開始(意見提出締切 2 月 22 日)

<http://www.icrp.org/consultations.asp>

○ICRP 報告書草案「Radiation Weighting for Reference Animals and Plants」の公開意見募集を開始(意見提出締切 3 月 1 日)

<http://www.icrp.org/consultations.asp>

4. これからのイベント

○J-PARC センター (JAEA/KEK) 第 6 回加速器施設安全シンポジウム

(2019 年 1 月 24 日-25 日、いばらき量子ビーム研究センター)

参加費：無料(参加登録が必要です。)

<http://j-parc.jp/symposium/anzen2019/index.html>

○放射線安全フォーラム 第 16 回 放射線安全検討会「放射線安全審議会の動向について」

(11 月 30 日 18:30~20:30、千代田御茶ノ水ビル 2 階 会議室)

<http://www.rsf.or.jp/events.html>

5. 公募情報、学生・ポスドク受入情報

○新着情報なし

既発行の新 Newsletter はこちらです。

<http://www.jhps.or.jp/cgi-bin/newsletter/page.cgi>

新 Newsletter にて発信を希望する情報をお持ちの方は、学会事務局へご連絡・お問い合わせください。

—
【発行】一般社団法人日本保健物理学会

【編集】同企画委員会

【発信元】同学会事務局

TEL: 03-6205-4649 FAX: 03-6205-4659

E-mail: exec.off@jhps.or.jp
—